

副園長日記

R4.5.27



令和4年度がスタートして、2ヶ月が経とうとしています。今年もまた、幼稚園での素敵な出来事や、子育てについて日々感じていることなどを、不定期で「副園長日記」として発行していきたいと思います。お気軽に読んでいただき、時々感想なども聞かせていただけると嬉しいです。

どんな親になりたいですか

さて、コロナ禍になって、2年が過ぎました。「ワクチン接種は」「マスクは」「行動制限は」など連日の報道で伝えられていますが、まだまだ収束は見えてきません。そんな中でも、少しずつ前に向かって進んでいくという情勢が見えてきました。



附属幼稚園でも、誕生会に誕生児の保護者の方のみですが参加いただけるように少しずつ制限緩和に向かっていくところです。

誕生会で司会の子どもたちが、年長児の保護者のみなさんに「どんな子どもになってほしいですか」と尋ねます。「やさしい子どもに」「今のままで大好きだよ」など、素敵なお言葉を聞いて、私たち保育者もあったか〜い気持ちになっています。「どんな子どもに」とはよく聞かれると思います。それでは、「どんな親になりたいですか」と聞かれたら、なんと答えますか。ちょっと考えてみませんか。「こんな親になりたいな」という夢をもって子どもと一緒にゆっくりゆっくりと成長していけるといいなと思います。

わたしは、親として「大好きって言葉や態度できちんと伝える」「ほかの人のことを悪くいわない」ということを大事にしてきました。自分が子どもだったころ、母が友だちのお母さんと井戸端会議をしているのをよく聞いていました。大好きな母なのに、嫁姑問題に対する愚痴を言っていたり、誰かの良くない噂話をしていたりすると、母の顔がどんどん暗くなっていきます。そんな姿がいやで、いつも母の服の裾を引っ張っては「はやく〜」と言っていたのを覚えています。その経験から、いやなことを話しているときの顔って、すごくい

じわるな顔だな、私はそんな顔をしたくないなと考えるようになりました。子どもが生まれて、この子には愛情をいっぱい感じて育ててほしいと思ったので、子どもの前で絶対にいじわるな顔にならないようにしようと誓ったのです。誰かの欠点を探すのではなく、いいところを見つけて好きになれる子どもに育ててほしいので、私もみんなを好きになれる人になろうと思いました。あの人のいいところは何かなって考えることは結構楽しいですよ。

「大好き」もたくさん子どもに言ってきました。親子でも、夫婦ならなおさら気持ちは言葉や態度で伝えることが大切だと考えています。にこにこ笑顔で「大好き！」って言うてもらおうとうれいすよね。幼稚園でも、子どもたちから「副園長先生、大好き」って言うてもらおうと、その日一日とっても幸せです。うちの子どもたちにもたくさん「大好き」を伝えてきたつもりです。それぞれ成人しましたが、今でも「自分のこと、大好き」って言っています。「そりゃ、お父さん、お母さんがたっぷり愛情かけて育てたもん」というと、「そうだね。ありがとう。」と笑っています。

それぞれのご家庭ごとに大切にしていることは違いますから、我が家のやり方が必ずしもいいとは限りません。ただ、私たち保育者は、子どもたちの笑顔を守りたくて日々保育に取り組んでいます。そして、お父さん、お母さんにとって居心地の良い園でもありたいなと考えています。

大人になっても夢を持ち続けていただきたいです。「こんな親になりたいな」「子どもが成人したとき、こんな親子になっていたいな」ぜひ、想像してください。そうして「親」でいることを楽しんでいただきたいなと考えています。

